

SELENE データ利用システムの概要について

The overview of SELENE data archive system and SELENE promotion activities

祖父江 真一 [1]; 奥村 隼人 [2]

Shinichi Sobue[1]; Hayato Okumura[2]

[1] 宇宙機構; [2] JAXA/SELENE

[1] JAXA; [2] JAXA/SELENE

<http://www.selene.tksk.jaxa.jp>

宇宙航空研究開発機構 (JAXA) においては、2007年夏の打ち上げを目指して、現在、月周回衛星 (SELENE: SELENOlogical and ENgineering Explorer) の開発を進めている。SELENE は、21世紀の世界的な月探査時代の幕明けを担う月探査機であり、主衛星と2機の子衛星 (リレー衛星と VRAD 衛星) から構成されている。主衛星は、月表面の元素分布、鉱物分布、地形・表層構造、磁場を詳細に観測するとともに、月周辺の高エネルギー粒子、プラズマ、電磁場などの環境を高精度に計測する。リレー衛星は、主衛星と地上局との間の測距信号を中継し、月の裏側の重力場計測を世界で初めて行う。また、リレー衛星と VRAD 衛星に搭載された相対 VLBI 用電波源により、月の全体の重力場をこれまで以上に精密に計測する。この SELENE から得られる観測データを、国内外の研究者等に広く提供するためのシステムを JAXA 相模原キャンパスの SOAC (月運用・ミッション解析センター) に整備している。

本稿では、SELENE の概要と SOAC に整備される L2 DB・公開システムを中心にしたデータ利用システムの概要を説明するとともに、当該システムを用いたデータの利用方法およびデータの公開計画について報告するものである。